

CONTENTS

● NAMMビジネスツアー	1・4
● MIDI検定1級試験実施	5
● CDC 著作権情報集中処理システム「Fluzo（フルゾ）」サービス開始	6
● インタラクティブ配信「最低使用料」の見直し協議状況について	7
● 「公益法人制度改革」について	7
● AMEI会員名簿・第14回通常総会と懇親会開催のお知らせ	8

第13回NAMMビジネスツアー AMEI/MMA会議報告



今年も2010年1月14日から1月17日まで、米カリフォルニア州アナハイム・コンベンションセンターにて2010NAMM SHOWが開催されました。NAMMの発表では、今回の入場者は、87,569人と昨年より2%の増、（ちなみに昨年は85,799人）。但し海外からの入場者（登録数）は2%減となっています。

出展社については、1,373社（昨年は1,505社）と、昨年に比べかなり減少しています。経済状況も含め、決して良い状況ではない中、NAMMショー初日朝からチケットを購入する列ができ会場は熱気に溢れ、アメリカ人の意地というか、ポジティブシンキングな姿勢が感じられる幕開けとなりました。

MIDI規格委員会主催の第13回NAMMビジネスツアーもNAMMショー及びMMA総会の日程に合わせ、1月13日出発～1月19日帰国のスケジュールで12名の参加協力を得て実施されました。

NAMMビジネスツアー

今回で13回を迎えるNAMMビジネスツアーですが、AMEI独自で実施するのは今回で2回目。

参加メンバーも、初めてNAMMに参加する方やMMAへの参加がメインのMIDI規格委員の方等、目的もスケジュールも異なる場面が多い為、ツアースケジュールに不都合がないか不安ではありましたが、とにかく成田空港第1ターミナル南ウィングに集合しました。

出発前のミーティングにて各メンバーの行動予定や、出来る限り情報交換が行えるよう滞在ホテルでのミーティングを実施する事等を確認しあい結団式を終了し、記念撮影の後、1月13日PM5時05分NH006便は夕日の空へ飛び立ちました。

1月13日午前9時45分、定刻にロサンゼルス空港に到着したものの通関も手荷物検査も大変な行列で、チャーターしたバスに乗り込んだのは1時間程経過したあとでした。最初の目的地は、去年も評判が良かったNAMM Museum。我々が現地に着いた時には、館長のTatiana Sizonenkoさんは既にNAMM会場に行っておられたのですが、我々が到着した事を聞き、急遽NAMM Museumに戻ってこられて館内の説明をしていただきました。

このNAMM Museumは、アコースティック楽器が誕生してから、電気・通信等の発明にともない、常にその時代の先端技術を取り入れ、如何にしてより多くの聴衆に音楽を届けるか、少しでも大きな音量・新しい音を出す為の試行錯誤を繰り返し、テルミンのような楽器や様々な形状をしたギター等、現代のエレキギターやアンプ・シンセサイザー等への進化の過程を展示していて、アメリカのポピュラー音楽はこうした楽器の進化と共にあった事を教えてくれました。

Tatianaさんの説明もわかりやすく、時々クイズを出したり、英語の勉強もさせてもらいました。

ARPやMOOGのモジュラータイプの大型シンセサイザーのコーナーを過ぎて、1970-1989年のInnovationsと題されたコーナーには、DX7、D-50、M1と3台の日本メーカーのキーボードが置かれていたのが印象的でした。

1月14日は、朝からメンバー全員で、滞在ホテルから歩いて15分程度の距離に位置するNAMM会場へ。初日の朝から人でいっぱいの会場入口でチケットの手続きを済ませ、各自終日NAMMの会場を見学、15日はメンバーの所属する会社の都合等もあり、各自別々にNAMMを見学しました。また、夜にはホテルの1室に集まり、各自の情報を持ち寄り、新製品情報を始め、各社の出展情報やイベント等色々な話を聞くことができました。メンバーの多くは、何度も訪れているNAMMですが、今年は展示ブースのレイアウトが大きく変わったり、規模が小さくなっている等の話でしたが、初日からの入場者の多さや、ショーを盛り上げようという姿勢が随所に見られ不景気を感じさせない、と言った意見も飛び交い、夜遅くまで音楽談義に花を咲かせました。



NAMM博物館 (The Museum of Making Music) 全景



成田空港にて 2010NAMMツアー結団式

AMEI NAMM ツアーに参加して<1>

JVCネットワークス株式会社

ネットビジネス部コンテンツ運営グループ

尾崎 泰一

Believe in Music

今回、NAMM2010ツアーにMMI推進プロジェクト担当メンバーとして参加させて頂いた。

初めてのNAMM体験…、それは正に“Believe in Musicに触れたことでした。出発前年々規模が縮小されている旨聞いていたが、見学すると、音楽業界の厳しさ、不景気を感じさせないSHOWであった。

最初は「凄いポジティブシンキング」と思ったが、ブースを回り色々な光景に出会うにつれ、自然なままの“Believe in Music”であることがわかった。

オールジャンル、オールエイジで音楽が自然なほどに世代世代に受け継がれている。世代ということでは、NAMMのオープニングを飾ったパレードが物語っていた、おじいちゃん、おばーちゃんと呼んでもおかしくない方々で構成された吹奏楽の音楽隊、演奏した曲はマイケルジャクソンの「スリラー」、その曲に合わせて踊るはそのおばーちゃん方々…、本当に音楽に対しての愛に溢れている。

楽器を始めた子供の頃からの印象、NAMMは有名なミュージシャンに会える場、確かにそのような場面も多々あったのは事実だが、NAMMに参加して“Believe in Music”にふれたのが、一番の収穫であった。

そう！NAMMは、音楽を、楽器を初めて好きになった時の思いを思い出させてくれた。



NAMM館長 Tatianaさんによる展示説明

AMEI/MMAオフィシャルミーティング

1月16日

1月16日午前中、マリオットホテルLAルームにてAMEI：岡部会長に、MMA：Tom会長からこれから行われるAMEI/MMAミーティングの概略内容説明が行われた後、AMEI/MMAオフィシャルミーティングが開催されました。

MIDI Visual Control (Mike Kent氏)：

MMAの規格文書形式への修正作業に時間がかかっている旨報告がありました。正式名称についてはMMAサイドで決め、スケジュール的には今年中にRP化したいとの合意が得られました。

その他、AVBの現状・IPポリシー・MIDI検定1級報告・MIDIロゴの商標登録・ISMC・MIDIのIEC規格化等について報告が行われました。

MMI (飛河氏、川嶋氏)：

1月17日に行うデモ内容について、PC上のAndriodエミュレータ環境、JAVA Eclipse上で動作させ、事前デモを実施。

その他、今までのMMIの市場展開状況は、いくつか対応アプリもできているようであり、携帯電話市場の動きは早いため、規格化スケジュールは早くしたいとの報告を行いました。



AMEI/MMAオフィシャルミーティング

MMA総会

1月17日

1月17日マリオットホテル1階Orange County BallroomにてMMA総会が開催されました。

MMA総会では、事業報告・ボードメンバー人事の交代等の説明の後、技術的な報告が行われ、その席上で、AMEI MMI推進プロジェクト：川嶋氏によるMMIのデモを行いました。



MMA総会での川嶋氏のデモ

HD-WG

1月17日

17日午後からはWGのメンバー限定でHD protocolに関する合同会議となりました。今年度はセミナーH.O.T. ZoneにMMAから発表を行うこともあり会議の時間は限られてしまいました。また、昨年と同じくNAMM終了後の月曜日に技術検討の会議が予定されているとのことで、このミーティングでは主にMMAとAMEI双方の状況の共有や問題点の提議などについて話し合いが行われました。

HDプロトコルの技術内容については、昨年末にスケーラビリティ確保と簡素化を目的とし大幅な見直しを計画しているとアナウンスがあった内容について、いくつかの簡単な説明がおこなわれました。プロトコルの将来にわたっての拡張性の確保やコンテンツ再生における楽器側の表現力の向上など、新しいしくみについ

での簡単な説明がありました。今回は時間が限られているため、十分な技術詳細についての討議ができませんでしたが、他にもいくつかの新しいアイデアも示されました。

合同会議終了後、MMAより急遽「セミナーH.O.T. Zone」にてiPhoneアプリデモのリクエストがあり、NAMMのセミナー会場に急いで移動し、MIDI規格委員会委員長：飛河氏によりiphoneアプリデモが行われました。



H.O.T.Zoneでの飛河氏のデモ

AMEI NAMM ツアーに参加して<2>

ヤマハ株式会社 半導体事業部 商品開発部
川嶋 隆宏

■ MMIプレゼンテーション

今回の大きな参加目的としては、MMI推進プロジェクトで進めるMMI規格のQWERTY拡張案に対して、MMAにプレゼン・デモを実施し合意を得ることでした。デモできる環境としてPC上のAndriodエミュレータ上で動作するアプリを準備し、そのアプリ上でQWERTY拡張案の動作デモを行いました。

しかしながら、プレゼンの場ではPC上のキーボードをうまく見ることができなかったことが反省点です。

今回のプレゼンはMMA総会後のSpecial Presentationsの枠内での紹介で、前日のAMEI/MMAミーティングにおいてもデモを期待されていたこともあり、ちょっとした演奏出し物も用意していました。本番は、プレゼンも演奏の方も個人的には納得するには至りませんでした。英語でスピーチするという良い経験となり、達成感は感じることはできました。

終了後もMMAのメンバーからは、お褒めのお言葉をいただいたことがとても嬉しかったです。MMAのメンバーは時には鋭い発言をしますが、人間的にとっても暖かい方が多いと感じました。拙いわたしを支えてくれたAMEI/MMAのメンバーに感謝いたします。

■ NAMM 2010

もうひとつの目的としては、もちろんNAMMショー視察です。現在わたしはモバイル関連ソフトウェア開発に従事している関係で、モバイル関連を中心にブースを観てまわりました。

まず傾向としてはPCツール・ソフト音源とキーボード・コントローラの組み合わせといった流れがあり、携帯電話がPC化していくことを考えればiPhoneとコントローラの展示が多かったことにも納得します。携帯電話関連といえばほとんどがiPhoneでした。

MMAの会議に出席していたこともあって、iPhoneとMIDIコントローラのプレゼンは3つ拝見することができました。ひとつはわたしと同じSpecial Presentationsの枠内での発表で、iConnectivityから。他はAKAIとLine6のプレゼンです。AKAIは特にアプリ作成のためのSDKも用意していくとのこと。apple社は、MIDIドライバの標準化は考えてないようで、先行したメーカーのドライバがデファクトとなっていくのでしょうか。このあたりの共通化はAMEIが入っていても良いのではとも感じました。他にもiPhone系はJammin社から多数展示されていましたし、iPhoneアプリもIKmultimediaなど多数見受けられました。インターフェイス系もEigenharpやBeamz、NovationのLaunch Padなどいろいろと工夫が凝らしてあるものが満載でとても勉強になりました。また国内メーカーで興味深かったのが、今回NAMM出展が初めてというサンヨーです。Eneloopの応用として楽器に注力していると

のことで、電源が取れないところでの機材向けバッテリーの展示がありました。Rolandもそうですが、こういった環境を意識した製品が見受けられたのも今の時流かと感じました。

わたし自身は、打楽器を趣味としてますが、余った時間で打楽器のブースでいろいろな楽器を観ることもできました。Pearl 発表の e-Pro Live はフロアタムをたたくとパイプレーションが！まさにシビれました。(笑)

あちこちのブースや広場で繰り広げられるパフォーマンスは、とても賑やかで楽しそうです。不況な感じをまったく受けなかった今回の NAMMショーも、そんな音楽を愛する人たちの思いから成り立っているのだなぁと痛感しました。

AMEI NAMM ツアーに参加して<3>

ヤマハ株式会社 ST開発センター
橋 誠

NAMM2010：初めてのNAMM体験

私がNAMM Showについて知ることになったきっかけは、数年前、MIDI検定の有資格者向けにAMEI様よりNAMM Showツアーの案内を頂いたことです。それ以来、いつか機会があれば行きたいという思いがあり、このたびツアーに参加させていただくことになり、大変うれしく思いました。その反面、不安も多々ありました。初めてNAMMに行くということで、どんな規模・雰囲気なのか想像がつかなかったことです。WEBからマップをダウンロードしましたが、マップにはたくさんの小さな区画に番号が割り振られており、それがいったいどのくらいの大きさなのかまったく予想できませんでした。

ツアーでは、まず成田空港でツアーメンバー全員が集まり結団式がありました。結団式では、ツアーメンバーの自己紹介、ツアーの日程についての確認、記念撮影などをしました。ツアーメンバーの半数以上の方がNAMMへの参加経験があると聞き大変心強く思いました。アメリカへ到着した初日は、全員で昼食をとった後、NAMM ミュージアムを見学しました。移動のためのバスや日本食（うどん）の昼食、NAMMミュージアムの説明員さんの手配など、本当に至れり尽くせりでした。

2日目～5日目はNAMM Showの見学になります。会場までの移動や、最初の関門であるレジストレーションまでは、ツアーメンバー全員で行ったので、トラブルなく会場に入ることができました。会場内は、本当に広く、1日で全てのブースを見てまわることは、到底できそうにない大きさでした。日本の楽器フェアには何度か足を運んだことがありますが、その数倍の規模だったと思います。このような広大な会場を効率よく見てまわるができるように、ツアーメンバーで夜に情報交換会をホテルの一室に集まり行いました。NAMMへの参加経験のある方から、「ここが面白かった」「あれは見たほうがいい」といった情報をいただけたことで、二日目以降はポイントを絞り込んで見てまわることができました。また、メンバーの方それぞれの音楽に対する熱い思いを聞くことができ、とても面白かったです。NAMM Showに興味はあるけれど、初めて行くので不安があるという方には、間違いなくお勧めできるツアーだと思います。

ネットの普及で現地に行かなくてもネット上の記事や動画でNAMMの情報はかなり得られるようになりました。しかし、実際の商品を手にとって触れることができたり、商品について一番詳しく知っている現地のスタッフの方に質問したり、商品が一番使いこなしている人（中には有名ミュージシャンもいたりします）のデモ演奏を聴けるといったことは、やはり現地に行かなくては得られない経験だと思いました。

AMEI NAMM ツアーに参加して<4>

ヤマハ株式会社 ST開発センター
田中 啓文

初めてNAMMを視察して

今回初めて、音楽電子事業協会様企画のNAMMツアーに参加させて頂きました。NAMMに参加すること自体も初めての体験でしたが、成田空港での出発の案内に始まり、NAMM博物館見学、NAMMレジストレーションの世話、情報交換の場（飲み会含む??）の設定など、関係者方々のお気遣いもあり、私自身は全く気を使うことなく無事にツアーを終えることが出来ました。

NAMMは、名前はよく聞くものの、どこで行われているのか、どんな規模で行われているものなのか、どのような人たちが参加しているのかなど未知な事ばかりでした。そんな状態で迎えたNAMM初日、会場のアナハイムコンベンションセンターに着いたときの第一印象は単純に“人が多い。規模がデカイ。”でした。常に活気があり、通路まではみ出し、会場をいっぱいを使用して、至る所で演奏や機器のデモが行われている状況に圧倒されるばかりでした。

今回、ツアーを通して世界各国の多くの企業・メーカーの方々と触れ合うことができましたが、視察中で印象に残ったことが2点あります。

1点目は出展各社の「製品の見せ方・デモのやり方」についてです。世界中が注目しているNAMMにおいて、新製品の発表を行う企業があり、マスコミやゲストも新製品に注目することは当然のことです。しかしながら、全社が常に新製品を発表することが出来るわけではありません。そんな中、自社一押しの製品を、時には有名人の演奏・トークを交えて大々的にアピールしたり、時には数十万円する自社商品を景品とした抽選会を行って注目を集めたり、ブースに防音スペースを設けて自社製品を用いた演奏行ったりと、各社とも“如何に自社（製品）について知ってもらおうか”に力を注いでいました。

そして2点目は、コンベンションセンターに掲げられた言葉「believe in music」が物語るように、NAMM参加者が持っていた「音楽に対する情熱」です。終日、説明員とゲストと音楽に関する真剣な質疑応答があちこちのブースで行われたり、デモ演奏が始まると小刻みにリズムをとった人たちが集まり、アルコールを片手に音楽談義に華を咲かせたり・・・。“本当に音楽を愛する人たちの集まりなんだなぁ”ということがひしひしと感じられました。

世界の音楽製品の情報と共に、音楽への情熱や楽しさをも与えてくれたNAMMツアーでした。



NAMM博物館にて 橋氏と田中氏

MIDI検定1級試験実施

2010年1月15日～1月25日、第1回MIDI検定1級試験が実施されました。

実施方法は課題曲スコア（楽譜）、及び制作規定書を参照し、楽譜に基づくスタンダードMIDIファイルを作成し、また作成したMIDIデータをもとに任意の音源でオーディオ化した作品をCDにしたもの、と制作環境などを記載した作業レポートを提出するというもの。

採点方法は、

1次審査：提出されたスタンダードMIDIファイルのノートの正確性、制作規定との整合性について

2次審査：オーディオCDの表現力および音楽性について

審査をおこない、受験者153名中43名が合格となり、1級ライセンスカードを交付しました。

以下に、1ヶ月に渡って、審査を行ってくださった、1次・2次審査員の紹介と、審査終了後、審査員座談会を行いましたので、合わせて紹介いたします。



[1次審査 審査員]

日本シンセサイザー・プログラマー協会（JSPA）MIDI検定作業委員会

大浜 和史	上杉 尚史	内藤 朗	國友 孝純
辻 伸夫	青山 忠英	相原 耕治	辻 敦尊

[2次審査 審査員]

【向谷 実】カシオペアのキーボード奏者、株式会社音楽館代表。名古屋芸術大学音楽学部音楽文化創造学科サウンド・メディアコース教授。鉄道と音楽をこよなく愛す。日本シンセサイザー・プログラマー協会（JSPA）名誉会員。

【外山 和彦】作・編曲家。1986年バークリー音楽大学（専攻は商業音楽編曲法）を首席卒業。帰朝後、CM・TV、ミュージカル作曲等多方面で活躍中。日本作編曲家協会（JCAA）理事。

【松武 秀樹】シンセサイザー・プログラマー、作・編曲家。YMOにサウンドプログラマーとして参加。1981年自己のユニットLOGIC SYSTEM結成。日本シンセサイザー・プログラマー協会（JSPA）会長。（社）日本芸能実演家団体協議会理事。

【篠田 元一】作・編曲家、ピアノ&キーボーディスト。ソロアルバム、Thprim、鍵盤王子等ユニットで活躍。音楽書籍の著作多数。音楽学校メーザー・ハウス講師。日本シンセサイザー・プログラマー協会（JSPA）会員。

【大浜 和史】作・編曲家。日本シンセサイザー・プログラマー協会（JSPA）理事長。音楽電子事業協会（AMEI）理事。MIDI検定委員会委員長。昭和音楽大学音楽学部講師。日本工学院八王子専門学校ミュージックカレッジ講師。



1級審査員：左から外山様、向谷様、篠田様、松武様



ホテルエドモント薫風の間に
1級審査員を囲んでの座談会

MIDI検定1級試験審査員座談会

3月23日に平成21年度第1回MIDI検定1級試験の審査員座談会が東京飯田橋のホテルエドモントにて開催されました。

今回新設された1級の2次試験を担当していただいた審査員の皆様を中心にMIDI検定委員会委員を交え大浜委員長の下司のもと約2時間にわたり、課題曲の評価基準、応募者のレベル、今後への期待等について、将来を見据えた意見交換がなされました。

2次審査対象者への課題としては、スコアを正確に表現する部分では対応できているが「もっと生の音楽に触れる機会を増やすこと」「リバーブの研究を」「アーティキュレーションやダイナミクスに工夫を」「音色の創造性を」といった部分がほぼ共通して指摘され、「技術は進歩するがそうなればなるほど創造性が求められる」といった意見に集約されました。

今回の1級では、1次審査では「正確性」を、2次審査では「音楽作品の聴感上における表現力及び音楽性」を審査対象としていますので、そうした意味では合格者の方達に更なる向上への努力を期待したいと思います。また、MIDI検定委員会としてもそのための支援策が課題として捉えることが出来ました。

今回の座談会では辛口の意見も含め、非常に有意義な意見交換が出来ました。

次回以降の展開に役立てていきます。

CDC 著作権情報集中処理システム「Fluzo (フルゾ)」サービス開始

音楽配信に係る著作権処理に伴う膨大なデータの効率的な処理を目指して、昨年3月に音楽配信の利用者団体と権利者団体が共同で設立したCDC（一般社団法人著作権情報集中処理機構）は、組織発足以来、著作権処理の円滑な処理を推進するための共通インフラとして、最新のICTを駆使した基幹業務システムを行ってまいりましたが、このほど、音楽配信事業者における著作権管理事業者への利用曲目報告データ作成を支援するシステム「Fluzo」が完成し、4月1日よりサービスを開始いたしました。

サービス開始に先立ち、3月31日に記者会見とレセプションがホテルルポール麹町において執り行われましたので、その様子をご紹介します。

記者会見は会場あふれんばかりの120余名の参加の中、冒頭、CDC佐々木代表理事の「1000社1万サイトを越える音楽配信が行われている中、膨大なネット上の権利処理が課題であったが（N：1：N）の法則により1（CDC）に権利処理が集中することにより権利者、利用者共に作業とコストが軽減されることになる。今後のコンテンツ流通の発展に貢献して

いきたい。」との挨拶に始まりました。

嶋谷システム担当部長からは、システムの概要と説明が行われた後、翌日より稼働のFluzoシステムのデモが行われ、幹事代表として利用者からは（株）エクシング吉田社長、権利者からは（株）ジャパン・ライツ・クリアランス荒川社長より挨拶の後、質疑を受け付け予定通りの時間で終了しました。

引き続き、会場を移してレセプションが開催されました。レセプションではCDC菅原代表理事からの「システムは4月1日には絶対間に合わないと言われていたが、間に合わせる事が出来た。これからも、がんばっていくのでご支援を宜しくお願いする。」との挨拶に続き、来賓を代表して内閣府内閣官房知的財産戦略推進事務局長の近藤賢二様の乾杯の音頭で始まり、和やかな内に終了しました。

参加されたAMEI会員の方達からは今回はとてもわかりやすいシステム説明であったとの声が聞かれました。

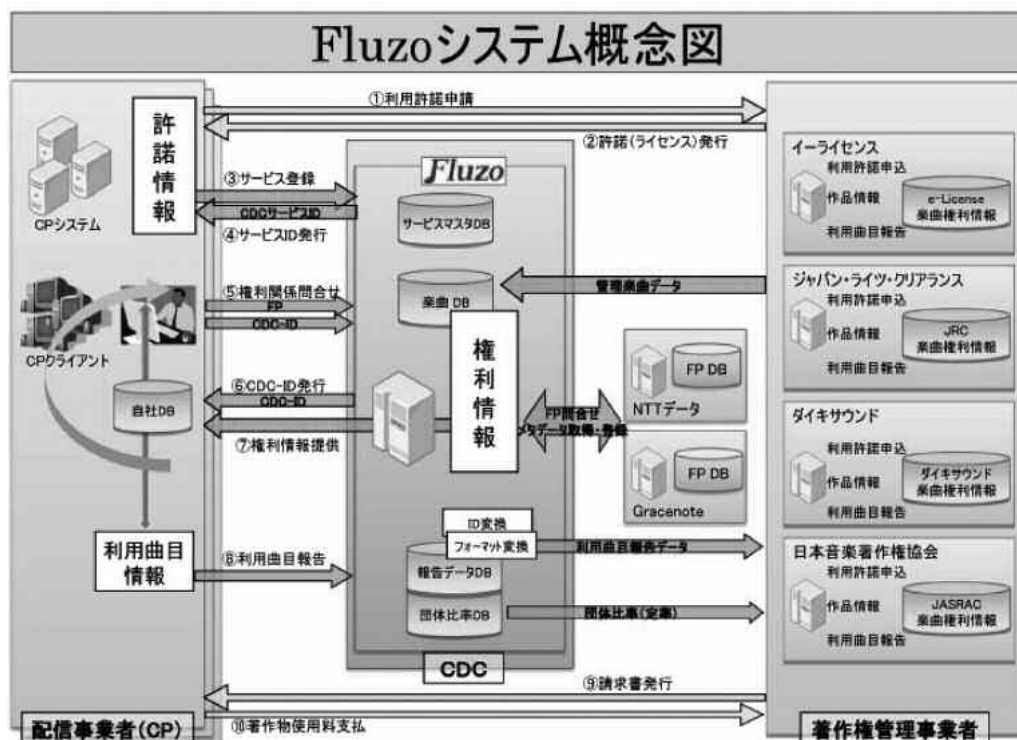
CDCの今後の活動に大いに期待したいと思います。



記者会見にて挨拶をするCDC：佐々木代表理事



レセプションにて挨拶をする
内閣府内閣官房知的財産戦略推進事務局長：近藤賢二様





インタラクティブ配信「最低使用料」の見直し協議状況について

前号のAMEI NEWS vol.40 (2009年12月16日発行) にてインタラクティブ配信「最低使用料」の見直し協議の経緯について報告しましたが、その後の進捗状況についてご報告いたします。

イーライセンスとNMRCは双方ともに迅速な解決を目指し2月中の合意を目標としておりましたが、残念ながら合意にいたりませんでした。2月中旬には協議に加えて双方の実務担当者による意見交換会も実施し、現状の問題点や矛盾点についての情報共有に努めましたが、最低使用料の定義や適切な実績報告手法については議論が出尽くしておりません。

そこで協議を継続するとともに、利用者からの実績報告及び現規程の最低使用料を適用した使用料金額の支払い継続

することとし、イーライセンスは合意形成後に、合意に至った条件で遡及して利用者に対し過払い分の差額を返金する旨の覚書を、NMRCと同社とで取り交わしました。

また、JASRACとは2009年12月下旬に実務担当者による意見交換会を実施し、規程制定当時と現状の市場状態が大きく変化したことを共通認識致しました。同協会からは許諾の取りまとめ案を近々に文書にて提案を受ける予定となっています。

引き続き協議の進捗状況については著作権・ソフト委員会定例会の場にて報告するとともに、皆様のご意見を伺いながらスピード感を持って、合意にむけての協議をすすめて参ります。



「公益法人制度改革」について

平成20年12月に公益法人改革三法が施行され、従来の社団法人は自動的に特例社団法人となり、「一般社団法人」または「公益社団法人」を選択のうえ、平成25年11月30日を期限として移行手続きを行わなければならないことは、「AMEI NEWS」にでも紹介してきました。

今回は、「一般社団法人」と「公益社団法人」の選択をAMEIが行う上でのポイントについて紹介をいたします。

新しい制度では、「公益目的事業」は、以下のように定義付けられています。

「公益目的事業」の定義

学術、技芸、慈善その他の公益に関する種類の事業であって、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものをいう。

そして「公益社団法人」として認定されるための「基準」は公益目的事業比率が50/100以上とされています。

運営委員会WGでの意見交換をした結果、現在のAMEIの各委員会活動に関する事業は右記のように考えられるとの結論を出しました。

製品安全・環境委員会：（公益事業）

MIDI規格委員会：部会での活動（公益事業）

NAMM ビジネスツアー（収益事業）

MMIプロジェクト：（公益事業）

著作権・ソフト委員会：（公益事業）

透かし推進プロジェクト：（収益事業）

メディアコンテンツ委員会：（公益事業）

MIDI検定委員会：MIDI検定（公益事業）

書籍販売（収益事業）

事業委員会：（公益事業）

広報委員会：（公益事業）

以上を見てみますと、公益事業に該当するのは「MIDI検定」のみとなります。

また、経費を各事業別に按分したシミュレーションの結果、現状では公益目的事業比率50%に達していないことも明らかになりました。

以上により、運営委員会WGではAMEIの今後の方向としては「一般社団法人」を目指すのが合理的な選択であるとの結論となり、3月17日開催の平成21年度第2回理事会に諮り「一般社団法人」選択の承認を得ました。本件は、5月13日の第14回AMEI総会の議案として審議される予定になっています。

一般社団 / 公益社団の比較

	一般社団法人	公益社団法人
法人設定	「公益目的支出計画」が適正かつ確実であること	認定法に適合していること
監督等	なし 原則、自主的な運営	内閣府の立ち入り検査が実施され、結果により勧告・命令、認定の取り消しがある
事業活動	自由な意思決定に任される	公益目的事業比率 50/100 以上
税制 (法人税)	「収益事業」のみ課税 税率 30% (非営利性が徹底された法人、共益的活動を目的とする法人)	「収益事業」のみ課税 税率 30% 共益事業の収益は非課税 寄付金優遇の「特定公益増進法人」
理事会成立要件	代理・書面不可 理事本人出席半数以上で成立し、その過半数で決議 3ヶ月に1回以上業務の執行状況を報告（定款で毎事業年度に2回以上とすることができる）	

会員名簿

50音順 2010年4月1日現在

あ	株式会社シンクパワー	ふ
アイデックス音楽総研株式会社	す	株式会社フェイス
アップルジャパン株式会社	株式会社ズーム	株式会社フェイス・ワンダワークス
い	株式会社鈴木楽器製作所	株式会社フォーサイド・ドット・コム
株式会社インターネット	株式会社スリック	フォスター電機株式会社 フォステクスカンパニー
インフォコム株式会社	せ	株式会社フットレック
え	セイコーインスツル株式会社	へ
株式会社エクシング	株式会社セガ	ベスタクス株式会社
株式会社エムティーアイ	た	み
株式会社エンターブレイン	株式会社第一興商	ミュージックノート株式会社
お	株式会社タムラ製作所	や
株式会社音響総合研究所	て	ヤマハ株式会社
か	ティアック株式会社	財団法人ヤマハ音楽振興会
カシオ計算機株式会社	株式会社ディーアンドエムホールディングス	ヤマハミュージックトレーディング株式会社
株式会社河合楽器製作所	プロフェッショナル・ビジネス・カンパニー	株式会社ヤマハミュージックメディア
き	と	ら
株式会社キューブ	東映ビデオ株式会社	株式会社ラグナヒルズ
く	有限会社トゥロッシュ	り
クリプトン・フューチャー・メディア株式会社	株式会社ドワンゴ	株式会社リットーミュージック
クリムゾンテクノロジー株式会社	に	株式会社リムショット
こ	学校法人片柳学園 日本工学院専門学校・	ろ
株式会社コルグ	日本工学院八王子専門学校	ローランド株式会社
さ	日本シンセサイザープログラマー協会	〈正会員会社54社〉
株式会社サイバード	は	
株式会社サミーネットワークス	パイオニア株式会社	*賛助会員
し	株式会社ハドソン	中音公司（中華人民共和国）
株式会社シーミュージック	パナソニック モバイル コミュニケーションズ株式会社	株式会社博秀工芸
JVCネットワークス株式会社	ひ	株式会社ミュージックトレード社
島村楽器株式会社	株式会社BMB	〈賛助会員会社3社〉
学校法人尚美学園		

社団法人音楽電子事業協会 第14回通常総会と懇親会開催のお知らせ

日 時：平成22年5月13日（木） 午後4時～
場 所：ホテルメトロポリタンエドモント 2階「万里」
◇平成21年度 事業報告 収支決算報告
◇平成22年度 事業計画（案） 収支予算（案）
◇定款変更 ◇公益法人制度改革への対応方針 ◇平成22年度役員選任

懇親会：ホテルメトロポリタンエドモント 3階「春琴」 午後6時～
（多数の会員の皆様のご参加をおまちしております）

社団法人 音楽電子事業協会 事務局 管理部長 神川 信郎氏が
2月をもって、定年退職されました。
後任を水野 滋氏（株式会社コルグ）が引き継ぎました。

AMEI NEWS Vol.41 / 2010.4.20
社団法人音楽電子事業協会 機関誌
発 行：社団法人音楽電子事業協会 事務局
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9 イトービル4F
TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549
発行人：岩崎修三
編集人：石黒士郎（広報委員会）
編集協力：株式会社 博秀工芸
ホームページアドレス：<http://www.amei.or.jp/>